

大阪市大家政 上林 博雄  
○一棟 宏子

1. 電気掃除機の普及は、その機能を通じて、住い文化の高度化や家事労働の合理化に役立ってきたが、現時点において、各社、各機種の特徴を消費者の立場からどう評価し、受けとめていくべきか、またメーカーにとってはどの様な事項を改善し、新しい機種を開発すべきかを明らかにすることは重要なことと考えられる。そのため、まず一般家庭における掃除作業の現状を把握し(家政学会関西支部 1969 年既報)、現在の電気掃除機に対する一般消費者の意見を多角的に徴し、その問題点を明らかにしたい。

2. 調査時期は 1968 年 9 月～12 月、調査票は 600 部配布し 412 部回収したが、うち 100 部は記入不完全のため集計しなかった。調査項目は①電気掃除機の使用機種について、②使い勝手について、③掃除機に対する消費者の感想(重さ、吸引力、取扱い、音について、掃除機の長所・短所について、吸込口について、集塵物の処理について、故障について、掃除機に対する消費者の意見)である。